

全部がいつとめたぞー燃料列車!

成田駅前 燃料列車

厳戒体制つき破り、成田駅前で、ホーム で、電車の中から……終日の支援行動

 ついにやったぞ!——三月二日、スト突入の朝の成田拠点、ろう城の組合員仲間の顔がほころびる。午前三時十分出勤の燃料一番列車指名スト突入を皮切りに、次々と整然と入ったジェット列車の指名ストはこの日成田において完璧に貫徹され、七仕業のジェット列車を一本残らず全部堂々とぶっとめたのだ。一週間にわたる線見訓練の連続激闘の疲れもふきとぶ、勤労千葉千三百、とりわけ成田支部一四〇名の快心の朝である。
 さすがにガツクリときた感じの当局をしりめに、朝八時五〇分(多)より意気天をつく支部集会に入っていた。
 前日に引き続き、この日も成田駅前には千名近い全国からの支援の仲間が朝七時よりつめかけ、支援・防衛行動を終日にわたって熱く展開した。レールをはさんで運転区ろう城の勤労千葉組合員と駅前・ホームの支援の大部隊の熱い熱いシュプレヒコールの交換が何度も何度もひびき渡った。何か月もかけて準備してきたジェット延長阻止三月決戦ストは、ここに勝利的な第一日目を堂々と打ちぬいたのである。

三〇〇名の熱気あふれる前夜総決起集会・ろう城(3/1夜)

成田市街を席捲してかちとられた屋間の三・一勤労千葉三月決戦スト支援大集会に引き続き、拠点成田の仲間には直ちにスト突入前夜集会へと移っていった。十八時、水野本部闘争委員の司会のもと布施副委員長が基調を提起した。「当局が二日と三日は助役機関士を使わないという事は、四日以降は、あらゆる凶暴な攻撃をかけるという挑発状である。国労・勤労が『二〇二億円損賠』とバーターしてスト破りを行うまでに危機と腐敗を深める今日の労働運動を戦闘的に再編再生させるためにも、このストは断固勝利せねばならない。労働連帯を貫き通す中に勝利への道がひらける」という訴えに拍手と異議ナシのかけ声がかかる。日暮成田支部長は「ハンドルを握り闘う機関士の誇りにかけて、十年前のマル生当時のような戦場に戻させないためにも断固闘おう。闘うことによつて戦場を守る。今や腹はしっかりとすわった」ときつぱりと決意を表明し、全組合員の団結を訴えた。共にろう城勤労をかちとった木更津・蘇我・津田沼・千葉転の各支部代表および青年部

より決意の表明がなされた。この日当局は異常なまでの弾圧態勢をしき、なんと数人の来賓の参加をすら長時間にわたって妨害したが抗議の声がふき上る中で姑息な妨害も失敗し、合流した、社会党・小川まさる、伊藤みよ両氏、清井弁護士、支援共闘、浅田代表世話人、関西新空港に反対する住民・永井代表、全通空港支部の代表から連帯激励のあいさつをうけた。
 このあとヘルメットの青年部を先頭に寒風ふきとばす戦闘的構内デモと、団結ガンパローをもつて十九時十分ろう城態勢に入った。

区長抗議交渉、スト防衛行動の先頭に立つ青年部

ろう城は緊張の中にも和気合々の笑い声があふれ、ハンドルを武器に、団結を武器に闘いぬいてきた百戦錬磨、たくましい労働者の姿をほうふつとさせた。反対同盟、青行隊より心をこめた贈り物、三里塚の野菜をつかった豚汁・野菜汁で温まる。食っても食ってもまだ山と積まれたこの野菜——それもそのはず、ざっとトラック二台

分なのだ。家にもって帰ったり、他支部にあげてもまだあまる。
 二〇時より青年部独自の区長抗議交渉が乗務員詰所が始まる。乗務中の機関士を公安を使ってひきずり降したのは何故だ、誰の責任か!——怒りをこめた全員の追及に区長はまともに答えられない。
 又、青年部は一時間ごとに輪番制で夜を徹してスト防衛構内巡察行動をやり通し、権力・反動分子の妨害・謀略・弾圧のスキを与えずストを防衛した。夜遅くまで運転区・駅周辺は「勤労千葉ガンパレ」のシュプレヒコールがとどろいた。
 そして、いよいよ三月二日午前零時、本部闘争委員会から発せられた「スト突入指令」をうけ、日暮支部長が午前零時十五分、当局に「四〇二列車をもってはじまる本日の全ての燃料列車への指名スト」を通告、あわせてスト破り等に対しては戦術拡大をもって対処する旨をきつぱりと通告し、ここに歴史的ストは堂々と切つて落された。かくしてスト初日、成田のうけもつ燃料列車七仕業(燃料五本、土屋燃料基地での入換二本)は全て完全にわが勤労千葉の手でガッチリとぶっとめられたのだ。われわれは更に更に力強くこの鉄路の闘いをおし進めていくだろう。歴史